

## 【B分科会】

### 主体的・対話的で深い学びを支援する学校図書館

《B一中・高 発表1》

## 「ICT時代における学校図書館の在り方」

広島県 福山市立鞆の浦学園

### 1 はじめに

本校は、「郷土ふくやまを愛し、心身ともにたくましく、意欲を持って主体的に学ぶ子どもの育成」を学校教育目標としている。日々の学校生活や授業において主体的に行動できるよう、子どもたちが自分で「決める・選ぶ・考える」ことを大切にしている。

本校の学校図書館にはPCルームが併設されており、情報センターとして魅力的な役割を果たしている。また、児童生徒に一人一台の学習端末が配備されたことにより、ICT機器を日常的に使える場が一層充実してきた。

ICT機器に触れる時間は増える一方で、本に触れる時間が減ってきているという課題が見えてきた。5月に実施した児童生徒アンケートでは、204人中34人が1か月に1冊も本を読んでいないことが明らかになった。本を読むことは、昨今の変化の激しい時代においても、自らの学習や生活をより豊かにしていくうえで大切である。児童生徒自ら本に価値を見出すとともに、限られた時間の中でも「本を手にとろう」と考える子どもたちを育てていきたいと考えた。

そこで9年間を貫く取組が可能な義務教育学校の特色を最大限に生かし、研究テーマを「ICT時代における学校図書館の在り方」とした。取組の柱として「児童生徒起点の学校図書館経営」と「授業改善」の2点を設定し、自分で「決める・選ぶ・考える」児童生徒の育成を、教科・学年を超えて全教職員で進めた。

### 2 研究の概要

#### (1) 児童生徒起点の学校図書館経営

- ・ 「どんな学校図書館にしたいのか」全校アンケート (Google Forms の活用)
- ・ 図書委員によるおすすめの本の紹介 (Google classroom の活用)
- ・ 図書館補助員による新刊図書・おすすめの本のお知らせ (Google スライドの活用)

#### (2) 授業改善

- ・ 全教職員による国語科「本と友達」の教材研究
- ・ 学校図書館を利用した系統的な授業実践
- ・ 学校図書館を活用した授業実践の交流

### 3 成果と課題

- 児童生徒が学校図書館の経営に関わったり、授業の中で学校図書館の環境を改善したりすることで、本の価値を改めて考えることができた。7月の児童生徒アンケートでは、「1か月に1冊も本を読んでいない」と答えた児童生徒が24人に減った。
- 9年間を通した学校図書館の活用を、教科・学年を超えた視点で見直し、改善を重ねることで、児童生徒自らが「決める・選ぶ・考える」場をより多く作り出すことができた。
- 学校図書館を取り巻く学習環境を常に魅力あふれるものにするため、読書につながる取組を継続し、児童生徒と共に発展させていく必要がある。